

セキュリティコンテスト 「SECCON 2013」開催の 意味と日本のハッカーの実力

サイボウズ・ラボ株式会社
SECCON 実行委員長
竹迫 良範



世界で一番有名な日本人ハッカーは誰でしょうか。実はケビン・ミトニックの逮捕に協力した米国国籍の物理学者「下村努」さんです。このときの逮捕劇を書いた本は映画ザ・ハッカー（原題：Takedown）の原作にもなりました。下村努さんを越える知名度のハッカーが日本で誕生することはあるのでしょうか。世界から見た日本のセキュリティのイメージは残念ながらあまり良いものではありません。相次ぐ情報漏えい事故や初歩的なウイルス感染の事件が報道されていて、日本にはきちんとした技術力を持った強いセキュリティ技術者が存在しないのではないかとされています。この日本のイメージを覆すことはできないかと、昨年からSECCON実行委員会を組織して活動を開始しています。

世界ではCTF（Capture The Flag）という情報セキュリティ技術をチームで競うコンテストが各地で開催されていて、世界的にはほぼ毎週どこかでCTFの大会が開かれているまでになっています。さすがにハッキング能力の高さを示すために、他国のインフラを攻撃することは倫理的に出来ませんが、CTFというゲームのルールに則ったコンテストで日本のチームが上位に来ることによって、その実力を正々堂々とアピールすることができるはずです。日本にもきちんとした技術力を持った強いハッカーが存在していることを世界にアピールできる恰好のチャンスです。

野球やサッカーなどのスポーツの分野では、世界に通用する人材を日本から輩出できていますが、それは甲子園予選やアマチュアスポーツ大会など多くの地方大会が盛んに行われていて、全国の学校に野球グラウンドやサッカーコートなどがあるからです。工学系の分野だと高専ロボコン、各種プロコン、技能五輪などの成功事例が数多くあります。これらの現状に対して、日本のセキュリティ分野のコンテストはまだその段階になく、これから土壌を整備していくフェーズです。SECCONは、日本でCTFの枠にとらわれない様々なセキュリティコンテストを実施し、世界に通じる優秀なセキュリティ技術者を輩出するための環境を各地に作って、地元文化に根付かせることを目標としています。

将来の日本のセキュリティ技術者がハッキング技術を勉強する場としてSECCONが存し、一つのきっかけになってくれることを願っています。アンダーグラウンドの世界に引き込まれないためにも、家庭や学校や職場の理解を常に得つつ、表舞台でセキュリティ技術を学び、それが社会に役立ち、正当に評価される環境を日本でも作ることが大事です。その点において現状のSECCONでは、数多くの後援団体様や協賛企業様のご支援を受けられている意義は大きく感謝しております。

引き続きJNSA会員皆様のご理解とご高配をいただきましたら幸いです。